

慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）

2025 年度入学試験（2024 年実施） 法学未修者コース 小論文試験 出題趣旨

【小論文】

本問は、古田徹也「倫理学は「運」をどう扱うべきか」東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要 33 号 21-29 頁（2020 年）に拠った。

問題文は、倫理学における運と道德の関係、あるいは「道德的運」について、学説史を振り返りつつ論ずるものである。筆者によれば、古来、倫理学においては、行為に与えられる道德的評価は、行為者の意図にもとづくものでなければならないという考え方が根強かったところ、近時では、運の要素を正面から加味した議論が行われている。

【問 1】では、これまで、運と道德の関係についてどのように論じられてきたかについての問題文の議論を正確に読み取り、文字数の範囲で適切に整理・要約できているかが問われている。

【問 2】では、「私たちが何らかの行為を自分で意志できるのは、そもそも「境遇の運」によるものが大きいですし、その行為の成り行きも「結果の運」に晒されています。」の意味をわかりやすく説明し、そのうえで、自身の見解を、具体的事例をふまえて論述することが求められている。問題文についての正確な理解が必要なことは言うまでもないが、ただその内容を繰り返すだけでなく、自分の経験や知識に基づき、自らの主張をその論拠とともに明確かつ説得的に展開できているかが問われる。問題文の主張を受け入れた上で、ではどのように「意志」「運」の要素を加味した倫理的評価を行うかを議論することもできるし、逆に問題文の主張を否定した上で自らの見解を展開することもできるであろう。いずれの場合も、文章の読解力に加え、問題意識の鋭さ・深さ、着眼点の良さ、論旨の説得力などが評価の対象となる。

【問 1】【問 2】ともに、答案全体を通しての文章の構成力と表現力、語彙の豊かさ、洞察能力、見解の独自性などを総合的に評価する。字数が足りない場合や超過した場合は減点の対象となる。